



花の見ごろを迎えるのが楽しみな国道沿いの花壇「牛乳の消費拡大を」と作業後は牛乳で乾杯！

## 遊休農地がお花畑に 酪農家が景観づくり

J A新いわて青年部葛巻支部（樋ノ口康支部長、会員50人）は5月16日、国道281号沿い小屋瀬付近の遊休農地を活用し、花壇を作りました。

参加した20人は、借り受けた土地435平方メートルにサルビアやマリーゴールドなど4品種約330本の苗をていねいに植え、その周りにミックスフラワーの種をまきました。

樋ノ口部長は「酪農の町のイメージアップにつなげようと計画しました。遊休農地の解消にもなり、今後は何力所か花壇を増やして町の景観づくりに貢献していきたい」と力強く語ります。

今月は、同じ場所に町をアピールする看板も設置する予定で、酪農後継者が多い青年部の意欲的な取り組みが目を引きそうです。

## 消防操法の成果を発揮 第1・第6分団が優勝

町消防操法競技会は5月27日、町総合運動公園駐車場で開かれ、全18分団の団員が日ごろの訓練の成果を存分に発揮しました。

審査の結果、自動車ポンプの部は第1分団が優勝、小型ポンプの部は第6分団が5年連続優勝を果たし、喜びに沸きました。

各部門の優勝分団は7月16日、県消防学校で開かれる岩手地区支部大会へ出場します。

上位入賞分団は、次のとおりです。  
▶自動車ポンプの部…①第1分団②第17分団③第4分団  
▶小型ポンプの部…①第6分団②第9分団③第8分団



気合いみなぎる消防操法競技会

## 親子が協力し農作業 農と食の関心高まる

葛巻中（中野繁校長）2年生43人は5月23日、作物の栽培や乳牛の搾乳を体験し、親子が協力しながら作業を通じて「農」や「食」への関心を高めました。

学年PTA行事として企画されたもので、学校近くの農地約220平方メートルを借り受け、保護者や祖母が講師となり、ジャガイモやサツマイモ、大豆、カボチャの4種類が植えられました。「カボチャ農場」の看板が立てられ、今後草取りをしながら収穫の秋を待ちます。

また、町畜産開発公社の協力で牛1頭が現地に運ばれ、1人ずつ搾りの感触を確かめていました。

農作業は初めてという親子も多く、自然と関わる農業の大切さを感じていました。



講師の田野ユリ子さんに教わり、くわを使ってジャガイモ種に土を掛ける生徒

## 名勝七滝に春の訪れ まつりでにぎやかに

七滝まつり（同実行委員会主催）は5月4日、下冬部ふれあい公園で開かれ、地域住民ら約120人が郷土芸能や民謡ショーなどで盛り上がりしました。

かつて、旧暦3月20日には地元をはじめ二戸や九戸などからの参拝客でにぎわったという名勝「七滝」。久しぶりに訪れた人たちは、うららかな日差しの中、木々の芽吹きを待つ七滝周辺を思い思いに散策していました。

屋からは焼き肉や郷土料理などを囲みながら、公園内常設ステージで漆原栄美子さんの民謡や手踊りを楽しみ、交流を深めました。



まつりの幕開けを飾った伝統芸能「下冬部七ツ物」

## 安心して過ごせる空間 子ども教室4校で開設

地域子ども教室（くずまき子どもの居場所づくり実行委員会主催）は5月、町内4校の児童を対象に開設されました。

今年は、葛巻小、五日市小に続き、小屋瀬小、江刈小も開設。週2～3回、それぞれの地域に住む2～4人の指導員が、放課後や週末の時間を活用し、さまざまな体験活動や地域住民との交流を支援しています。

各教室のコーディネーターを務める漆原豊さん（上外川・岩手子ども環境研究所職員）は「地域の方々もかかわりを持てる場所、子どもたちが居心地よく過ごせる場所にしていきたい」と話しています。



毎週月曜と金曜に開設される「小屋瀬小チャレンジ広場」



ずぶぬれになりながら夢中で魚をつかまえる参加者

## 馬淵河原に歓声響く じゃっこつかみ大会

町消防団第2分団OB会（熊谷善助会長、会員33人）は5月20日、馬淵川の大橋付近で「じゃっこつかみ大会」を開きました。

石でせき止められた川にはイワナ150匹、ハヤ300匹が放され、参加した約40人の子どもたちは歓声を上げながら追い掛け回していました。

今回、初参加の大石稚葉ちゃん（葛巻小3年）は「魚がぬるぬるして面白い」、渡辺菜月ちゃん（同）は「来年もまた来たい」と目を輝かせていました。

この大会は、川に親しむ機会が少なくなった子どもたちのために10年ほど前から毎年行われています。